

家政学における典型研究法の意義 (3)

「保育の質」に見る認可外保育所の実態—利用者の保育要求の側面から

○森 圭代* 岸端康代* 金田利子* (*静岡大)

【目的】静岡市の認可外保育所において、実際にどのような保育が行われているのかを明らかにするとともに、保育所を利用している保護者の保育所の利用の仕方や、労働の形態等の状況の違いを明らかにする。そして、この結果を典型として静岡市全体の保育要求をとらえ、子どもにも保護者にも利用しやすい保育を考える。

【方法】①静岡市内の認可外保育所10カ所を視察し、保育所の概要や、認可保育所と比較した利用条件の違いを見る。②静岡市内の認可外保育所9カ所と、認可保育所4カ所において、入所児の母親に質問紙調査を行う。質問内容は、保育所を選んだ基準、園での生活への関心、子育てを直接援助する縁有無、保護者の労働形態、認可外保育所を利用した感想(自由記述)等である。

【結果と考察】①今回視察した認可外保育所は、ベビーホテルと一般認可外保育所を中心とした10カ所であるが、保育所ごとの保育内容の違いがとても大きかった。保育内容は、夜間保育や延長保育など保育時間には柔軟な対応がされているが、保育料の高さや「保育の質」においては厳しいものがある。②母親の仕事の満足度や育児休業制度の利用の割合は、一様に認可外保育所の利用者の方が低かった。また、父母の労働形態についても、認可外保育所の利用者の方が認可保育所の利用者と比較して、労働時間が長く不規則ということが分かった。認可外保育所の利用者は、保育を必要とする静岡市民の約1割という少ない人数ではあるが、この層の保育要求が、今後の保育制度に求められるものの本質を明らかにする突破口を切り開くことになるものと考えられる。